

変化の時代に、進化で挑む。 Fukushima Dynamism

学長 三浦 浩喜

President MIURA Hiroki



福島大学では、2024年9月に「福島大学グランドデザイン2040」を策定し「変化の時代に、進化で挑む。Fukushima Dynamism」をキャッチコピーとして掲げています。14年前の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の発災以来、本学は一貫して被災者への支援活動を行ってきました。一連の取り組みで、問題を解決する方法と答えは現実社会の中にあるということ、新しい問題に対して用意されている答えは用をなさず、時間をかけて新しい答え、つまり「新しいやり方」を創り出さなければならないということを学びました。VUCA（予測不能で、不確実で、複雑で、曖昧）の時代を切り拓くには、対症療法ではなく、創造的に課題を解決する新機軸が必要です。福島大学では教育と研究、地域貢献を一体化させ、現代社会で求められている「イノベーションの担い手」を育てたいと考えております。

本学では2024年4月に「共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所」を開設いたしました。研究所では、「水素・再生可能エネルギーの地産地消ふくしまモデル」を創り出すため、学問分野を横断した研究が着々と進んでおります。地元自治体や他大学との連携も強固であり、エネルギー災害を経験した福島だからこそその視点から水素関連産業の構築、人材の育成を行ってまいります。また、同学類では今年度より「高度情報専門人材の確保」に向けた取り組みを開始いたしました。情報理工学分野の体制を更に強化させ、地方自治体や企業のDX化を強力に推進できる人材を輩出いたします。

教育分野では、2025年4月より農学分野の博士課程である岩手大学大学院連合農学研究科に参画いたしました。岩手大学・弘前大学・山形大学とともに、グローバルな視点を持った次世代の高度専門職業人を養成します。

福島大学では、「福島大学グランドデザイン2040」のもと、2027年に学士課程改革を行う予定です。改革を通じ、これまでの3学群5学類制を4学部制へと改組するとともに、高等教育のエコシステム構築を実現してまいります。文部科学省の推計では、2040年の国内の高等教育機関の定員充足率は約7割まで低下すると言われており、18歳人口が急減期に差し掛かっている今はまさに改革のラストチャンスです。「正解のない問い」にチャレンジできる人材を育成すべく、新しい教育組織や研究組織、地域連携の形を探究し、地方国立大学の新しいあり方を追求してまいります。

今後とも、引き続き本学へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

現代社会は「VUCA」(予測不能、不確実、複雑、曖昧)と呼ばれ、気候変動や大規模災害の頻発、急激な人口減少・少子高齢化、そして昨今の物価高など、多様な問題が生じています。一方で、AI技術の発展やDX・GXを活用した生産性向上は希望の光であり、技術革新をけん引し社会問題を解決・緩和できる人材の育成が大学に強く求められています。

本学は、創立以来6万6000人ももの優秀な人材を世に送り出し、75年以上の長きにわたって地域を支える役割を果たしてきました。また、東日本大震災や東京電力福島第一原

子力発電所事故以降は、創意を凝らした復興支援プロジェクトがいくつも生まれ、その先端的な取り組みが、国内外から高く評価されています。

急激な社会の変化に直面する中で、10年後、20年後の地域の将来像を描き、大学への期待に応えるため、2040年までに取り組むべき目標を「福島大学グランドデザイン2040」として策定しました。私たち福島大学は、変化に対応できる「強い大学」を築くために今後も努力してまいります。

大学として対応すべき課題

- ◆ 国立大学法人としての機能強化・発展
- ◆ 少子化問題への対応
- ◆ 財政基盤の強化
- ◆ 社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

ミッション(使命)

- 「新しい社会のあり方」を提案できる大学
- 個人の Well-being, 社会の Well-being の実現を目指す大学
- 激変の時代に「柔軟に、かつ強靱に」取り組む大学

ビジョン(目標)

- 「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
- 地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

大学改革

ミッション、ビジョン実現へ向け、新たな教育研究組織を構築

- 教育と研究を一体的に行う新たな学士・修士・博士課程へ改組
- 学長のリーダーシップで意思決定を効率化するためのガバナンス体制の見直し・整備
- 持続可能な大学を目指す財政改革
- 組織と研究分野の再構築で本学の強みを強化
- 県内外の高等教育機関と連携を強化し、機能の共有を実質化

福島大学グランドデザイン2040の本文はこちら▶

バリュー(行動指針)

教育

- 問題解決型教育の推進
- 異分野融合を促進する教育組織の再編
- 教育の質保証徹底と学修者中心のカリキュラム構築

研究

- 異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系との融合を期待した理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学の社会貢献の在り方を再構築・強化
- 研究者が問題解決に関わる地域貢献の実践研究を設計
- 将来の地域の姿や課題を明確化し、逆算して課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故復興と少子化に対応した教員養成の福島モデルを構築
- 少子化を考慮した附属学校園の抜本的改革を実施

地域に即したグローバル教育を全学で推進

- Fukushima Ambassadors Programを発展させ、地域に即したグローバル教育を全学で推進
- 留学生増加、語学力向上、海外インターンシップ活性化
- 海外との共同研究数の増加

2段階改革 段階的に改革を実施し、「時代にあった」福島大学を創ります。

[2027改革] 人文社会系, 附属学校園の再編と理・工・農機能強化 ▶▶▶▶▶ **[2031改革] 全学的研究機能の強化(予定)**

- 人間発達文化学類を「教育学部(仮称)」に転換し、人材育成に特化
- 行政政策学類と経済経営学類を統合し、「政経学部(仮称)」を新設。人材育成理念を統一し、社会実装の課題に対応
- 附属小学校と附属中学校を統合し、「附属義務教育学校(仮称)」に
- 学生・教員数の重点化および研究分野の絞り込みによる理工農機能の強化
- 協働的研究指導体制を実現する大学院の改革
- 外部研究資金獲得のポテンシャル向上
- 産学官連携の強化

※本冊子に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、2026年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。
なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。

福島大学は学士課程改革を行います

概要：「福島大学グランドデザイン2040」をもとに、令和9年度より学士課程を現行の3学群・5学類から4学部・3学科1課程に再編します。

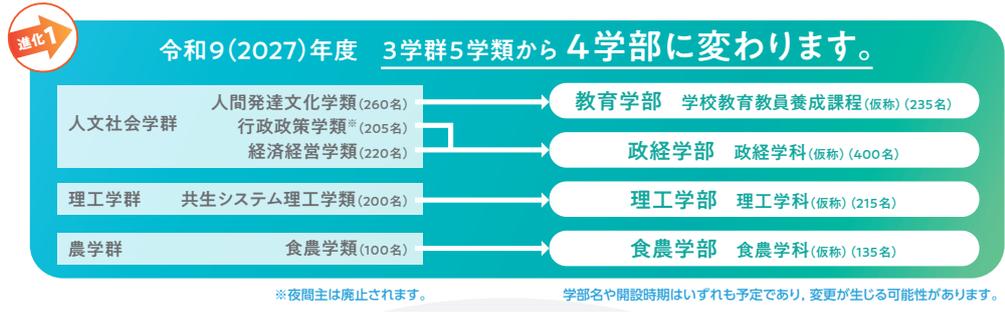


定例記者会見(令和7年4月9日)にて発表しました

「正解のない問い」に挑む、これからの学びへー 学士課程再編

新しい福島大学で身につけてもらいたい力

①「専門性と社会への応用力」 ②「課題の自分事化と解決への意欲」 ③「分野を超える知識と新たな発見」
④「協働する力と遂行する力」 ⑤「積極的な働きかけと倫理」



“先生”になるだけじゃない “学び”を創る人になる。 地域の子どもたちとリアルな関わり、探究する力を持った「学びのリーダー」を育てます。ともに学びを創る力を身につけます。

教育学部 (仮称)

- 地域課題を掘り起こし教育を通して解決を試みる **地域課題探究コース**
- 国際的な視点で日本や諸外国の文化や生活を考える **グローバル探究コース**
- 数学や理科、技術、アートをつないで課題を解決する **STEAM教育コース**
- 学校現場での活動を通して教師の資質を身につける **教育臨床コース**
- 多様な子どもたちが共に学ぶ教室をつくる **インクルーシブ教育コース**

理工学部 (仮称)

- 理論と実践力のバランスのとれた情報人材を育成する **情報理工学コース**
- 物理学などを基盤に技術やシステムの創出を担う人材を育成する **メカトロニクスコース**
- 水素などの先進的でクリエイティブな化学系人材を育成する **分子デザイン科学コース**
- 環境を多面的に捉え、計画・管理する人材を育成する **環境システムコース**

1 1年次には教員免許等に沿った<系>で学びます！

- 国語系 ●英語系 ●社会科系 ●算数・数学系
- 理科系 ●保健体育系 ●心理系

2 以下のような教員免許を取得できます！

- 小学校1種または2種(取得必須)
- 中学校(国語、英語、社会、数学、理科、保健体育)1種または2種
- 特別支援学校1種
- 高等学校(国語、英語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、情報)1種
- ※他学部の講義の受講が必要です。
- ※その他、公認心理師受験資格など取得可

3 2年次より課題別コースに分かれてプロジェクト学習を進めます！

基盤教育
大学で学ぶための基礎力・問題意識
×
専門教育
確かな知識、最先端の技術
×
共創知教育*
分野横断による「+a」の専門性

1 入学試験は学部一括で行い、2年次からは4つの専門コースに分かれ深く学びます！

2 1年次では、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工学の基礎を学びます！

3 廃炉や除染技術、再生可能エネルギーなどをテーマに多彩なフィールドワークで実践的に学ぶことができます！

「社会実装力」を身につけ、地域や産業の未来を創る。

政経学部 (仮称)

ビジネス戦略、公共政策、地域経済、国際問題—身近なニュースの「その先」を深く考え、現場で学ぶフィールドワークを通して、社会にイノベーションをもたらす人材を育成します。

- 地域資源や新技術を活用し新しい価値を創造する **産業・地域社会イノベーションコース**
- 地域企業の新陳代謝をけん引し地域経済を再構築する **経済経営コース**
- 公的な視点で新しい社会の姿をデザインし伴走する **公共政策デザインコース**

食農学部 (仮称)

持続可能な食のシステム、地域で生産される農作物。食と農を入り口に、よりよい人々の暮らしや社会の仕組みを考えます。

- 食品の栄養や機能を解明し豊かな食と健康を創造する **食品科学コース**
- 気候変動に対応した革新的農業生産技術を開発する **農業科学コース**
- これからの地域社会と農業の活性化を担う **農業経営学コース**
- 農山環境の保全と利活用を推進する **フィールド環境学コース**

VUCAの時代
予測不能で、不確実で、複雑で、曖昧な社会

*共創知教育 学部・コースの専門領域を越え、「+a」の新たな専門性を身につけ、より実践的で、より現実に根ざした学修を目的とした教育です。協働プロジェクトに発展させることもできます。

1 農業の現場での実習や、福島県全体をキャンパスにして実践的に学びます！

2 分野を横断したチームで、地域の食と農の課題に幅広く取り組みます！

3 1年次から「土」や「水」に触れ、農場で栽培実習に取り組みます！

研究力を向上させ、地域とともに未来を創る

※本資料に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、2026年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性がありま。



内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業 「バイオマス由来水素・炭化物製造システムが導く地方創生」を開始しました

概要

福島大学共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所では、内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業により「バイオマス由来水素・炭化物製造システムが導く地方創生」を開始しました。

本プロジェクトでは、福島大学を中心とする研究機関と、水素関連産業への参入を目指す意欲的な地元企業が連携し、小規模地産地消型のバイオマス由来水素・炭化物製造システムを確立し、県内全域への水素供給を可能とした水素社会の実現を目指します。また、水素エネルギー総合研究所の機能強化を図るとともに、新たな人材育成プログラムを構築し、即戦力となる高度専門人材の育成、スタートアップ企業の創出に取り組みます。

背景・狙い

本事業は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金令和6年度第2回公募に採択されたものであり、地域における大学の機能強化と産業振興を一体的に推進することが求められています。このプロジェクトでは、県内に豊富に存在するバイオマス(剪定枝、稲わら等)を活用し、小規模地産地消型の水素・炭化物製造システムの研究開発に取り組み、水素及び付加価値の高い炭化物の安定供給モデルの確立さらには地域大学の魅力向上と若者の雇用創出を目指します。

●本プロジェクトは定例記者会見(令和7年4月9日)にて発表しました



プロジェクトの取り組み内容

本プロジェクトでは、産総研(FREA)や他大学の研究機関、県内の地元企業と産学官連携の下に、「バイオマス×水素×炭化物」に関する共同研究を行うとともに、水素と炭化物を製造するプラントを需要のある工場近辺に設置し、配送コストを削減した地産地消ビジネスモデルを実現し、福島県全体への水平展開を目指します。

まずは10W級の実験室規模のプラント、次に5~25kW級のパイロットプラント、100kW級(水素60トン/年)の実証・実用化プラントと次第に規模を増大させたプラントを構築し、最適なバイオマス、熱分解炉、反応器、透過膜、水素・炭化物の活用(カーボンニュートラルタイヤ製造等)に係る研究をプラントの規模毎に行い実用化へと繋げます。

また、福島大学水素エネルギー総合研究所については、施設整備、教員の増員、トップレベル研究者の招へい等の機能強化を図るとともに、人材育成では、水素・エネルギー関連コースを新設(令和7年度:学士課程, 令和9年度:修士課程)し、高度専門人材の輩出やスタートアップ企業の創出を目指します。

●「バイオマス由来水素・炭化物製造システムの構築」展開のイメージ

＜製造プラントの段階的な規模拡大イメージと水素・炭化物の利活用例＞



福島大学大学院食農科学研究科(修士課程)は岩手大学院連合農学研究科(博士課程)へ参画しました

概要

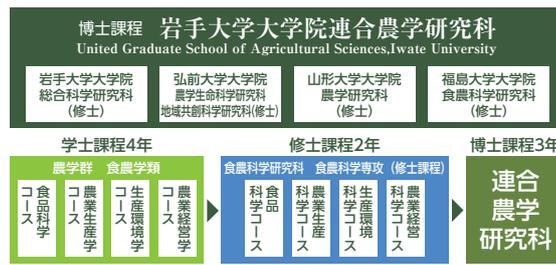
福島大学大学院食農科学研究科(修士課程)は、令和7年4月に岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程)へ参画しました。大学院連合農学研究科は、設置大学と複数の大学とで研究科(博士課程)を構成するもので、全国に6つの大学院連合農学研究科(岩手、東京農工、岐阜、鳥取、愛媛、鹿児島)が18の国立大学の構成のもと協働で農学系分野の教育研究を行っています。

岩手大学大学院連合農学研究科はこれまで岩手大学、弘前大学、山形大学で構成されていましたが、令和7年4月に福島大学が参画し、現在4大学で構成されています。福島大学大学院食農科学研究科(修士課程)を修了した学生は、岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程)に進学し、籍は岩手大学に置きながら、福島大学など指導教員が在職する構成大学に配置され、3年間の研究指導を受けます。学生1人に3人の教員(主指導教員1人、副指導教員2人)が研究指導に当たります。また、福島大学以外の大学院修士課程を修了した学生や社会人、留学生などが福島大学に所属する教員(主指導教員)の指導を受けたい場合も、岩手大学大学院連合農学研究科に入学(進学)・在籍して指導を受けることができます。

福島大学は、今後、岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学として更なる高度な人材を養成し、先端的・学際的な研究を推進していきます。

参画理由

福島大学大学院食農科学研究科(修士課程)設置の趣旨の一つとして、福島県が抱える地域課題の解決を先導できる高度専門職業人の養成があります。岩手大学大学院連合農学研究科に参画することで「東北」としての一体感が強調できます。また、東北の農林水産業を取り囲む課題は、少子高齢化・人口減少、担い手不足、過疎・中山間地の持続的な発展等は共通であり、同じ課題を共有しつつ各構成大学と連携しながらの人材養成や協同した取り組みが期待できます。



福島大学「学生ジャーナリスト」

福島大学では、令和2年に学内の魅力を発信するチーム「学生ジャーナリスト(通称:GJ)」が結成され、現在86名の学生メンバーと職員と一緒に活動しています。放送班、SNS班、写真班、めばえ班、翻訳班の5班で構成され、各班が協力し合いながら、大学公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」と共に、学内外に向けて「顔の見える大学」として、学生ならではの視点・立場で広報活動を行っています。学内の様々な人・団体を紹介する15分間のラジオ番組「めばえのたね」(通称:めばらジ)、SNSを使ったクイズ企画、福島大学公式YouTubeチャンネルで「めばえちゃん」が様々なことに挑戦する動画企画、Instagramを使った福島大学フォトコンテストなど、幅広い活動を通して福島大学を盛り上げています。



福大祭でのステージ発表